

長瀬一秩父学習バス旅行

企画部

10月10日（火曜日）晴天の下入間学園9期校友会バス学習旅行が開催された。当初42名の申し込みがあったが、39名の参加となった。全校友会員のほぼ2/3もの参加があり、企画した側としてはうれしい誤算でした。



社会学習でも使用した丸大トラベルサービスの赤いバス



道の駅「あしがくぼ」で休憩。行きから土産を買う人も。



長瀬駅前で案内者の自然の博物館前館長の本間さんに会う。



虎目石 (スチル'ノメル)



要所要所で説明を聞き、観察しながら岩
畳の上を歩く。日焼けはお肌に大敵と日
傘で防御する女性軍。



旅行中に荒川の清流に洗われた結晶片岩の美
しい色と模様感動した賢治は、
「つくづく『粋なもやうの博多帯』荒川ぎ
しの片岩のいろ」と歌ったのはここか？

長瀬 自然の博物館 エントランスホール
(カカト'ンガ'ロ'ン (古代サメ) の実物大模型)





観音茶屋で新そば+天ぷら+五穀米稲荷をいただく。1100円なり。

秩父ワイナリー 社長から直々に説明を受ける。



試飲で乾杯！



浦山ダムで説明を受ける。重力式ダムでは日本で2番目の高さ156mとのこと、しかも1番とは1m違い。何とか1m高くできなかったものか。このダムの目的は1洪水対策、2 水道水・農業用水の供給、3 発電、4 河川の自然状態の確保（途切れることなく流す）。



7月4日、企画部員皆で秩父 - 長瀬方面に下見、その上で具体的な日時、訪問先を決める。その後、数社のバス会社を訪問、その中の2社から合い見積もりをとり、丸大トラベルサービスに決定。8月、バス旅行第1次募集を行う、思いのほか多くの参加意向を得て、バスを大型に変更。予定日の10月10日は晴れるとの統計を信じていたものの、近づくにつれて少し心配に。雨の日のオプションを考え始める。

結果は10月にしては暑いぐらいの天気、長瀬自然の博物館前館長本間さんの説明を受ける。この説明者も少し紆余曲折があった、この1ヶ月ぐらい前にプラタモリが放映され、その影響か博物館から学芸員の説明が難しくなったと連絡を受ける。服部が前館長本間さん（地質学専攻）の知り合いであったことから、個人的に本間さんに依頼してくれないかと広報課長から依頼を受ける。本間さんの了解を得る。長瀬駅前で案内の本間さんに会い、土産物屋街を抜け荒川左岸に。土産物屋の試食で何人か足を止め、全体に進行が遅くなる。荒川左岸の岩畳の上を説明を聞きながらさかのぼる。甕穴、緑色片岩、石墨片岩、赤壁、虎石などを観察。さて観察学習の結果的にはどうだったろうか、説明は分かりやすく良かったと思うが、少しアカデミックすぎただろうか。

博物館内の見学後、小鹿野に向かう。31番札所観音寺の手前の観音茶屋で新蕎麦と天ぶら、五穀米稲荷、サービスの揚げ芋がでる。そばが出てくるのが遅く、最初から出ていた稲荷と揚げたての天ぶらがおおいしかった。最後のメンバーにそばが出るころ、初めに配られたメンバーは食べ終わる。遅くなったが蕎麦はゆでたてで、こしがあり美味しい。天ぶらそば＋稲荷2個付き1400円の所を稲荷1個減らして1100円にしてもらおう。企画部C主婦部員の強い使喚によりH部員が交渉、とほぼ、主婦は強し。

食後は秩父ワイナリーへ、工場で製造工程の説明を社長から直々受け、試飲へ。あるメンバーは高そうなワインばかり試飲する。何本売れたのだろうか。

その後、最後の訪問先の浦山ダムへ。ここでは2班に分かれ係員からの説明を聞く。係員の一人は、なんとC企画部員と同じ入間の団地に住んでいることが判明、毎日入間から車で通っているとのこと。

このダムは、重力式ダムでは日本で2番目の高さの156mとのこと、しかも1番とは1mしか違わないらしい。何とか1m以上高くできなかったものか。このダムの目的は1洪水対策、2水道水・農業用水の供給、3発電、4河川の自然状態の確保（途切れることなく流す）の4つ。ダムでは放出の水の質を厳密に管理しているとのこと。濁りの少ない水、また、水温にも気をつけ、冷たすぎず熱すぎずの水をダム湖の水深毎のデータを考慮し、選択して放流するとのこと。ただ単に適当に放水しているわけではなかった。初めて知ったことも多く非常に興味深い見学になった。

なお、行き帰りのバスの中では11月に開かれる入間連協の文化祭、9期の出し物のカラオケとコーラスの練習を行った。なかなか渋い喉を聞かせる人、低音の魅力を出す人、綺麗なソプラノの声の人、タクト（手）を振り皆をリードする人、9期のメンバーは多士済々である。

（服部記）